

図工部の話合いから
(蝦名先生, 出先生参加)

授業者から

- 児童がこれまでに見たことがある世界的に有名な絵画の活用について
 - ・レオナルド・ダ・ヴィンチの作品については、モナ・リザは見たことがあるという児童が多かった。最後の晚餐もレオナルド・ダ・ヴィンチの作品だということには驚きがあったようだ。
 - ・ミレーの作品については、知らない児童が多かったようだ。
- 作品の中からはいろいろなものを発見したり、作者の意図や想像したことを話したり聞いたりする場面の設定
 - ・『最後の晚餐』の中からはいろいろな発見をしている様子が見られた。また、『モナ・リザ』との比較では、違いについて多く発見する様子が見られた。描かれているものからイメージを広げ、作品の理解を深めている様子が見られた。
 - ・『落穂拾い』は見たことがないという児童が多かったが、作品の造形要素からイメージを広げることと労働者の貧富の差などに気付く様子が見られた。また、他の児童の発言を通して新たな発見をする様子も見られた。以前、作品の鑑賞をした際に「何も感じない」と言っていた児童も、今回は作品の中からはいろいろな発見をする様子が見られた。
 - ・コロナの状況でなければ、グループ等で話し合った後に全体でさらに話し合うことでより深まるのではないかと思った。話し合う場面の設定にはより工夫が必要である。

◎八嶋より

- ・作品に描かれていることを基に話し合うことを通して、新たな発見をする様子が見られた。
- ・表現の意図を感じ取り、見方・考え方を深めるところまで考えると、作品を絞って、話し合うのもいいのではないかと考える。
- ・ビニールシートを作品に重ねて考えを記入していくのは、グループの話合いでは有効であるように感じた。提示した作品に考えを書き込む際には、作品のどの部分を見てそう思ったかがわかりづらくなるので工夫が必要であると考えた。
- ・ICTの活用で、話し合う場面の充実ということもねらえるのではないかと思った。

◎蝦名先生から

- ・自分の生活経験と照らし合わせ、作品に描かれている造形要素からいろいろな発見をしていた。
- ・鑑賞する作品を選ぶところから授業が始まっている。故に、どのような作品を選ぶかが非常に重要になる。
- ・指導案の主に働かせる見方・考え方の箇所に「親しみのある美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりすること。」とあったが、この授業では、どうすることが見方・考え方を働かせることになるのか、具体的にしていくことも大切である。造形的な見方・考え方は教科の本質であると教科調査官も言っている。

◎出先生から

- ・作品の中からどのようなことを考えていくかについて興味深く見ていた。
- ・作品の大きさなども含めて、どのように作品を提示するかはとても重要である。
- ・『落穂拾い』では、貧富の差や労働者の苦労などを考えている児童が多かったが、実際の作品のテーマとしては、そのようなことを伝えたいわけではない。子供の生活経験からは理解しがたいこともあるので、作品の理解を深めるためにどのような情報を与えるべきかが課題である。

◎理科部より

- ・ 情報を与えない鑑賞もおもしろいと思う。作品の中からいろいろなことを発見していた。
- ・ 新しい視点に立ち、意識してICTを取り入れる等工夫すると、より子供たちの意見が活発に交流できたのではないかと考える。この時世だからこそ、チャレンジの価値はあると思う。
- ・ 拡大印刷に直接記入しないのは作品を大切に作る図工部の気持ちがわかった。班ごとに掛け替える、重ねるなどの活動が実際に見られると本来の効果がわかったかもしれない。
- ・ 作品についてどのような情報を与えるべきか、どのような作品を鑑賞すべきか難しいと感じた。